

BOOK Review

病院前救護学

評者 田島 典夫 愛知県小牧市消防本部消防署署長補佐

救急救命士法が制定されて30年目となる2020年、救急救命士がよりプロフェッショナルになるための本『病院前救護学』が出版された。

本書の中で郡山一明先生は、「救急救命士は現場とはどういうものかを、経験によって得られた暗黙知ではなく、分析的かつ科学的な観点から改めて知っておく必要があります」と書かれている。これまでの救急救命士の訓練は、経験と勘に頼った「暗黙知」によるものや、地域MCのプロトコルに沿った活動の訓練、観察や処置の順番を覚えるといういわゆる操法的なものが中心で、その指導方法も指導者となる救急救命士個人に頼ることが多かったと思う。一方で、救急救命士制度発足以降、病院前救護活動に関するさまざまな教育コースが開発され、全国各地で展開されてきた。しかしながらそれは、あくまでも病院前救護活動における標準的な指標の一例にすぎず、自分たちが出動する救急現場を全て包含できるものではない。そのため、それらの教育コースを受講した救急救命士はその内容をさらに発展させる必要があると思うが、教育コースで学んだことが生かしきれていないのが現状ではないだろうか。

そうした現状を打破するために、ぜひとも本書を活用

すべきと思う。本書では、訓練論として、「訓練課題の抽出」「訓練計画」「訓練設計」というように、順序立てて訓練を組み立てることができるようになっている。また、その他にも、現場論、チーム論、組織における人材育成論、地域解析論など、消防における病院前救護活動にグッと踏み込んだ内容となっている。中でも評者自身が特に印象的だったのは「地域解析論」である。評者も郡山先生から直接ご指導いただき、搬送した傷病者の傷病名を分析して、自分たちの救急活動の根拠を見出すことができた。救急救命士の皆さんにも現場論に書かれているFagonのノモグラムを用いたり、地域解析論に書かれているような自地域の解析から始めてみたりすることをお勧めしたい。いずれにしても、本書は知識を詰め込む形式ではないため、実際に本を片手に実践していただきたいと思う。

病院前救護活動の向上は、現場の救急救命士にしかできないし救急救命士がやらなければならない。消防署において救急を管理する立場の方、指導救命士、指導救命士をめざしている方、救急救命士研修所の教官、後輩の指導に行き詰っている救急救命士など、救急救命士を指導する立場の全ての方に、ぜひ一読することをお勧めする。

病院前

郡山一明

救護学

1つ上のキャリアを切り開く
新時代の救急救命士のために

本書は、救急救命士法が制定されて30年目を迎える2020年、救急救命士がよりプロフェッショナルになるための本として出版された。本書は、救急救命士の現場における実践的な知識と技術を、最新の現場情報と最新の研究結果に基づいて紹介している。また、救急救命士のキャリアアップのためのヒントも提供している。

医学書院

郡山 一明 著

B5判/178頁/2020年/定価3,960円(本体3,600円+税10%) / ISBN978-4-260-04275-8 / 医学書院刊